

第2回第七採択地区教科用図書採択協議会

議事録

期 日 令和2年7月21日（火）

場 所 北本市文化センター 第1・2会議室

開 会 9時00分

閉 会 16時30分

令和2年度 第七採択地区教科用図書採択協議会会長	清水 隆
委 員 鴻巣市教育委員会 武藤 宣夫 教育長	石原 完 委員
桶川市教育委員会 岩田 泉 教育長	水村 実男 委員
伊奈町教育委員会 高瀬 浩 教育長	澤田 誠一 委員
北本市教育委員会 清水 隆 教育長	大保木道子 委員
事務局 北本市教育委員会学校教育課長	坂口 修
北本市教育委員会学校教育課主幹兼指導主事	田中 雅之

1 開 会

2 あいさつ 第七採択地区教科用図書採択協議会会長（北本市教育委員会教育長）

3 日程等の確認及び説明

（事務局）日程等の説明

4 調査報告・質疑

（司 会）協議に入る。ここからは清水会長に議長をお願いする。

（議 長）それでは、協議に入る。

記録について、要点のみ記録することによろしいか。

（全 員）異議なし。

（議 長）発言者については、議長とか委員Aという形によろしいか。なお、記録作成のため、録音させていただく。記録が済み次第消去するというので、いかがか。

（全 員）異議なし。

（議 長）傍聴人は第七採択地区教科用図書採択協議会傍聴人規約に基づき、傍聴願う。それでは、協議に入る前に、選定の流れについて事務局に説明願う。

（事務局）選定の流れについて確認する。

協議終了後、教科用図書選定の時間において、協議の内容から委員の皆様のご意見により決定していく。委員全員の意見が一致したときには、その図書を第七採択地区の採択案として選定する。一致しなかった場合、規約第13条により、投票となる。投票の場合は規約第13条の2項により、過半数を得た教科用図書を採択案として選定する。また、規約第13条の3項により、過半数を得ない場合は、得票数の多い順から2種類の教科用図書について投票を行い、多数を得たものを選定とする。規約第13条の4項において、得票数が同じ場合、選定前の協議経過を勘案して会長が決

するとなっている。

選定の流れについては以上。

(1) 保護者の代表による研究結果の報告

(議長) それでは、研究結果の聴取に入る。はじめに、保護者の代表による研究結果の報告である。事務局から保護者の代表を紹介する。

(事務局) 保護者の代表として2名の方に依頼し、中学校の教科用図書全般にわたって研究していただいた。その結果を聞き取り願いたい。

(議長) それでは、よろしく願います。

(保護者代表) 保護者の立場から、国語・書写・地理・歴史・公民・地図・(音楽)一般・器楽合奏・美術・外国語の教科用図書を調査した結果を報告させていただきます。

【国語】

○東京書籍は、新しい漢字の提示の仕方が見やすく、学習の導入をわかりやすくキャラクターで解説する工夫がされ学習しやすくなっていた。

○三省堂は、「読み方を学ぼう」というコーナーによって、これから読む文章のどこに着目してよいか分かり、読み取ることに力を入れていた。

○教育出版は、文章の量も多く、今日的な内容もあり、読み物として興味をもたせる工夫があった。「学びのナビ」でポイントがまとめられていた。

○光村図書は、文章が見やすく、脚注が多く、家庭で予習ができるよう工夫されていた。QRコードの資料も豊富で、文章の背景等を視覚的に捉えられるよう工夫されていた。

【書写】

○東京書籍は、教科書に書き込めることで、学習の記録が残るようになっていた。ポ

ップを書くなど、現代的な取組もあった。

○三省堂は、楷書、行書の比較を多くすることで、書体の特徴を捉えやすく工夫されていた。また、葉書の書き方など、大切にしていきたい風習などから書道に触れようとする印象があった。

○教育出版は、筆圧、なぞり方、書体の解説と丁寧なお手本があり、視覚的に文字を理解しやすくなっていた。見やすい、わかりやすい「ノートの取り方」も興味深い取組であった。

○光村図書は、練習できるページが多く、自主学習もできるようになっていた。挿絵やイラストもちょうど良い量で、落ち着いて学習に取り組めるようになっていた。

【地理的分野】

○東京書籍は、写真やグラフが多く、それらの配置も見やすく、「チェック」では、子供たちがどの程度分かっているか確かめられるように工夫されていた。

○教育出版は、資料が多く、大きいものが多く、興味をひくようになっていた。「読み解こう」「学習関連コラム」「Q」のコーナーで、活用の仕方を学べ、他教科との「関連」もわかりやすい工夫がされていた。

○帝国書院は、臨場感あふれる写真やコラムが多く、子供たちが地理という教科に興味をもって取り組めるようになっていた。資料が見やすく、課題も分かりやすくなっていた。

○日本文教出版は、キャラクターによる問いかけや解説は、子供たちが学習に興味をもてる工夫があった。考える必要性を感じる防災に関連づけた内容も多く見られた。

【歴史的分野】

○東京書籍は、年表で時代が把握しやすくなっていた。デジタルコンテンツも提供され、家庭でも多くの資料に触れ、小学校で学んだ歴史人物の復習など、問題演習も

できる工夫があった。

- 教育出版は、年表や写真・図表などの資料が見やすく配置されていた。「学びリンク」で、専門機関等のページにすすめ、学習が広がるようになっていた。
- 帝国書院は、ページの右側に年表があり、勉強している場所を把握しやすく、振り返りページでは、わかりやすくまとめられた年表で学習内容の確認ができるよう工夫されていた。
- 山川出版は、学習内容を深めるコラムや、歴史上の人物や参考資料の説明が詳しく書かれていた。また、「～である。」という断定的な表現をすところがあった。
- 日本文教出版は、それぞれのページに、「時系列」「推移」「比較」など、歴史学習の大切なつながりがわかりやすくなっていた。
- 育鵬社は、日本で活躍した女性たちを「なでしこ日本史」というように他の教科書とは視点を変えた捉え方ができるようになっていた。資料がわかりやすくなっていた。
- 学び舎は、A判で文字も大きく、読みやすいようになっていた。掲載された資料から読み取れることを中心とした解説の文章が多くなっていた。

【公民的分野】

- 東京書籍は、身近な生活から課題を見つけられて、内容について、グループで考え、発表ができるような工夫があった。
- 教育出版は、日本国憲法について詳しく解説されていた。QRコード資料「学びリンク」では、外務省や内閣府といった専門機関とのリンクができ、家庭でもさらに深い内容を知ることができるようになっていた。
- 帝国書院は、日常生活の課題をイラストでわかりやすくしてあり、興味を持って学習に取り組めるようになっていた。「アクティブ公民」では、グループで議論ができる工夫が見られた。QRコードでの資料提供も豊富だった。

○日本文教出版は、学習のはじめに身近な場面をイラストや写真で説明しているのがイメージしやすく、「アクティビティ」では、課題を議論しながら、深めていけるようになっていた。デジタルマークから動画が見られて、理解が深められるようになっていた。

○自由社は、習ったことが「ここがポイント！」でまとめられており、「アクティブに深めよう」で歴史的な背景と社会の仕組みについて、考えを深められるようになっていた。

○育鵬社は、それぞれの章の「入り口」で、イラストを用い学習内容がつかめる工夫があった。「スキルアップ」でディベートに取り組めるようになっていた。

【地図】

○東京書籍は、統計の資料が多く、子供たちがそこから読み取れることが多くなるよう工夫されていた。「索引」にテーマごとの分類ページがあり、わかりやすいようになっていた。

○帝国書院は、地図が見やすく、歴史の舞台など他教科でも活用できる資料や今日的課題にも対応できる資料や、地図を読み取る技能を身につけるコーナーも多くあった。

【音楽一般】

○教育出版は、「うたう」「きく」「つくる」の見出しが3色に分かれていて、何が目標なのか分かる工夫があった。QRコードの学びリンクでの資料提供や写真等、子供たちの音楽への興味を引き出す工夫があった。

○教育芸術社は、学習の目標が、色分けした見出しになっていた。写真や資料を使って、曲のイメージを膨らませて、歌うような工夫が見られた。音楽用語の解説も見やすい位置にあり、基本もおさえられていた。

【器楽合奏】

○教育出版は、楽器の構造や名称、構え方、奏法など写真や図、イラストで丁寧に提示していた。楽器の基礎だけでなく、アンサンブルやさらなる応用まで取り組めるように工夫していた。

○教育芸術社は、楽器図鑑等で楽器がジャンルごとに分かれており、興味を引き出す工夫があった。リコーダーの指使いがページの両側になり、すぐに見られてわかりやすいようになっていた。

【美術】

○開隆堂は、参考の写真や制作の手順などがあり、また、巻末の「学びの資料」を活用することで、子供たちが発想豊かに制作に取り組めるようになっていた。ICTを活用した作品にも触れて、興味をひく内容となっていた。

○光村図書は、取り組む題材に応じたQRコードで、作品を360度鑑賞できる動画や技法の動画など、活用できる資料が多く掲載されていた。和紙を使ったページもあり、素材の違いなどを教科書で感じ取れる工夫があった。

○日本文教出版は、上下巻の2冊になっていた。動画作成や写真表現などICTの活用についても方法や手順を示していた。見開きのページが多く、資料が大きいいため見やすく迫力が感じられた。

【英語】

○東京書籍は、プレビューで、これから学習する内容の大まかな背景について学習し、本文と関連する内容での文法練習を行っていく流れであった。文法のまとめがしっかりされており、基本的な事項の確認ができるようになっていた。

○開隆堂は、新しい表現の学習に入るページは、イラストで解説し興味をもてるよう工夫されていた。2つから3つの文法が見開き1ページに集約されている構成になって、「リテル」のページで、活用の力もつけられるようになっていた。

○三省堂は、それぞれのレッスンごとに、聞いたり、話したり、読んだりできるようにたくさんの活動があった。小学校で学習したことを振り返りながら、中学校の勉強につなげられるようになっていた。

○教育出版は、スプリングボードでゲームをしながら小学校で習った表現を復習でき、中学校への壁をなくす工夫があった。できるようになったことを確認できる表や、マスキングシートなどもついていた。

○光村図書は、英文の内容が3年間続いており、共感しやすい中学生の身近な生活から幅広い視野の話につながっていた。QRコードで音声や実写映像も再生できるようになっていた。

○啓林館は、1年生の巻頭では、小学校で習ってきたことを確認して、始められるようになっていた。新しい文法は例文を通して学べる構成になっていた。また、プロジェクトを活用しながら学習確認ができるようになっていた。

(保護者代表) 保護者の立場から、数学・理科・保健体育・技術家庭・道徳の教科用図書を調査した結果を報告させていただく。

【数学】

○東京書籍は、小学校の学習からのつながりや「数学の学び方」が解説されており、興味をもって取り組めるようになっていた。Dマークでは、動画などで学習内容がわかりやすく、目で確かめられるようになっていた。

○大日本図書は、身近な題材や職業と数学のつながりが示されて、興味がわく工夫があった。「活動」「例」から始まり、「たしかめよう」や「補充問題」に取り組む構成で、学習の進みがわかるようになっていた。

○学校図書は、「Q」のコーナーで、中学生の対話で課題を理解し、「例」ではノート

形式で解答の仕方を示し、親しみやすいと感じた。「確かめよう」では、誤りやすい部分を示していた。

- 教育出版は、今まで習ったことと新しい学習のつながりで興味を引きつけ、「工夫してノートを書こう」では、普段の授業で活用できるポイントが明記されていた。
- 啓林館は、学習内容を「例」、「例題」、「問い」「練習問題」という統一した流れで学べるように構成がされていた。QRコードが多く、視覚的にも理解を促す工夫がなされていた。
- 数研出版は、学習の前に、ノートやレポートの書き方のガイダンスがあった。また、章末の問題にはAとBという難しさの違う問題があり、一人一人の力に合わせて取り組めるようになっていた。
- 日本文教出版は、学習の前に教科書の使い方や数学の学び方、ノートの取り方などが丁寧に解説されていた。章の始めには、今までに習ったこととの関連、章末・巻末には、生活と学習内容との関連があった。

【理科】

- 東京書籍は、かなり縦が長い形である。問題発見から課題設定と実験までの流れが自然であると感じた。結果や考察の視点もあり、学びの手順が明示されていた。
- 大日本図書は、課題設定・実験・観察のあとの結果整理とその考察で探求の流れがつかめる工夫があった。振り返ろうで自分の言葉でまとめさせるパートもあった。
- 学校図書は、「課題」や「まとめ」が明確で、また、今まで習ったこととの関連も載っていた。また、Can Do list で何ができるようになったかを確認できるようにする工夫がみられた。
- 教育出版は、観察や実験の手順がステップで示されていた。まとまりごとに「要点と重要語句の整理」「基本問題」があり、巻末にも問題と基礎技能を載せるなど、基礎的な力を身につける工夫があった。

○啓林館は、実生活との関連から理科の大切さをコラムで伝え、学習意欲につなげる工夫が見られた。QRコンテンツが豊富で、動画などで手順を示し、「探Qシート」で主体的に学ぶこともできるようになっていた。

【保健体育】

- 東京書籍は、章の最後に資料がまとまっている構成だった。文字や図での解説で、シンプルで見やすくなっていた。Dマークコンテンツが充実しており、必要であれば、動画等での資料も確認できる工夫がみられた。
- 大日本図書は、「学習のねらい」から始まり1時間の流れが明示されており、多くの資料も提供され、活用しながら学習できると感じた。教科書だけでなくデジタルコンテンツも活用でき、わかりやすくなっていた。
- 大修館は、小学校だけでなく、高等学校の学習との関連も書かれていた。イラストや図表を用いて、「つかむ」から始まる3ステップで構成されて基礎的な内容が理解しやすくなっていた。
- 学研教育は、小学校・高等学校との学習の系統性も示されていた。最初にどんなことを学ぶかをつかみ、見通しをもって学習に取り組めるように工夫されていた。

【技術分野】

- 東京書籍は、日常生活と技術活用が示されていて、興味関心をもって学習に取り組める工夫があった。巻末には、基本ソフトの使用の仕方があり、「プログラミング手帳」が別冊で、使いやすくなっていた。
- 教育図書は、学習の流れがわかりやすく、また、QRコードで動画や資料が充実していた。道具の使い方からプログラミングなどは、別冊「技術ハンドブック」で、使いやすくする工夫があった。
- 開隆堂は、学習のはじめに、具体的製品や技術を紹介し、日常生活と教科を結びつけて、興味関心がわく工夫がされていた。QRコードが随所にあった。基本技術や

プログラミングの資料は、巻末にまとまっていた。

【家庭分野】

- 東京書籍は、写真・イラスト・図表が多く、また、デジタルコンテンツも充実していた。意欲が高まる実習の例が多く、幅広い難易度から実習を選択できるようになっていた。子供の社会体験めがねなどの付録もあった。
- 教育図書は、資料が多く、多彩な付録があり、興味関心を高め、基礎的な事項も理解しやすいようになっていた。自己評価を書く欄が教科書の中にあり、振り返りができるものになっていた。
- 開隆堂は、学習の流れがつかみやすくなっていた。見開きで、「課題」から「振り返り」ができ、マークで視覚的にわかりやすくなっていた。QRコードは音声のついた動画も見られた。

【道徳科】

- 東京書籍は、ロールプレイなどを取り入れて、体験的に学習し、日常生活に生かすことができるようになっていた。「いじめ問題」「生命尊重」に関して重点的に扱っており、今日的な課題に触れているところに工夫があった。
- 教育出版は、各教材の冒頭は問いかけで始まり、考えてねらいに近づけるようにしていた。現代的課題、普遍的な人権的課題、著名人やスポーツ選手に関する教材などが、バランスよく配置されていた。
- 光村図書は、教材ごとに「てびき」があり、学習が深まるように工夫されていた。「いじめ」「情報モラル」など今日的な問題から、「生命の尊さ」などバランスを考えて、配置されていた。
- 日本文教は、別冊の道徳ノートの巻頭記述を活用することで、生徒自身が問題意識をもって取り組むことができるようになっていた。保護者記入欄もあり、家庭と学

校の連携も図れるようになっていた。

○学研教育みらいは、生徒自ら主体的に課題を発見し、解決する能力を培うことを重視している構成になっていた。深く考え、議論できるような工夫として、あえて主題名を記載していないところが特徴的だった。

○廣済堂あかつきは、教材末には考えるポイントを示し、生徒が活発に対話をしながらその中で考えを深める工夫をしていた。教材と「道徳ノート」の2冊で構成されていた。

○日本教科書は、様々な身近な事例を扱った教材の末尾に、人間としての生き方への考えを深める設問を取り入れていた。著名人やスポーツ選手を扱い、道徳的な価値についてより身近に感じ、また日常に結び付けやすくなっていた。

(2) 調査員による調査研究結果の報告・協議

(議長) 調査員による調査研究結果の報告に入る。

①国語

(議長) 国語の調査員代表、よろしく願います。

(調査員代表) 報告書に基づいて、国語4発行者について報告する。

(議長) 質問はないか。

(委員A) 指導要領の改訂に伴い、主体的・対話的な学習ができるよう、どの発行者が手立てを講じていると思われるか調査研究についてお示しいただきたい。

(調査員代表) 4者ともに、生徒が主体的に学習できるように意欲づけや見通し、振り返り、評価など学習のサイクルを意識したつくりとなっている。

(委員B) 物語文について充実していると感じた教材はあったか。

(調査員代表) 何度指導要領が改訂されても残る文学作品はある。時代が変わってもどの教科書会社であっても同様である。その作品に親しんでもらいたい、その作品から文学の魅力を学んでもらいたいという思いがある。指導要領が改訂されれば、評価の観点は変わるため、不易と流行を意識し学ばせる必要がある。

(委員 C) 国語科において、デジタル教科書を意識し、より充実した教科書となっている発行者はあったか。

(調査員代表) 各教科書発行者とも、ICTを活用した教育効果として、視覚を有効に活用し読みを深められるような構成となっている。

(議長) 他の質問はないか。

質問がないので、報告については終わりにする。

(議長) 協議に移る。それぞれ意見願う。

(委員 A) 第1案は光村図書である。学習の見通しをもたせ、問題解決的な学習を主体的に取り組めるように工夫している。国語としての活動が豊富であり、終末に学習を閉じるのではなく広げる方向で終わっている点も良いと考える。漢字学習や読書案内も充実していた。第2案は、東京書籍である。学び方を大事にしていると感じた。読書活動も工夫していた。第3案は三省堂である。「学びの道しるべ」で学習の見通しをもたせている。文字量が豊富で学力の高い生徒には良いと考える。一方で読み込めない生徒もいると考える。

(委員 B) 光村図書がよいと考える。主体的、対話的の追究に向け見通しから振り返りまでの流れを具体的に示している。SDGsについても幅広く取り上げている。資料についてはQRコードを読み込み、必要なコンテンツ

を利用できるようになっている。学んだことを活かせるようイメージされている。

(委員 C) 第1案は光村図書である。話す、聞くという教材が多く言語活動の充実が期待できる教科書である。全体として読み物が多い。教科書の終わりの方に読書感想文の書き方があった。第2案は三省堂である。物語があり、課題があり、学びやすいと感じる。「学びの道しるべ」で漢字や次の単元への流れがスムーズであると感じる。第3案は教育出版である。学ばせる前に見通しをもたせる「学びナビ」がある。ゴールを意識した学習ができると考える。

(委員 D) 第1案は光村図書である。見やすく読みやすい、学習過程と学習課題が視覚化されている。漢字に読み仮名が書きすぎてないのがよいと考える。読書を進めるという点でも本の紹介が充実している。第2案は教育出版である。関連図書が充実していて学習の見通しが立てやすい。第3案は三省堂である。

(議長) 他の意見はないか。

意見がないので、協議については終わりにする。

②書写

(議長) 書写の調査員代表、よろしく願います。

(調査員代表) 報告書に基づいて、書写4発行者について報告する。

(議長) 質問はないか。

(委員 A) 最近の若い人の文字は乱れているように感じる。実生活の中で書く機会が少ないようである。中学校の教科用図書の中でそのことをどのように

扱っているか。

(調査員代表) パソコンやスマホをはじめとして生徒の文字離れは進んでいると考えられる。表現力は豊かな生徒もいるが、書き方については力が落ちているように感じることもある。生活と文字という関連で考えると礼状を書いたり願書を書いたりレポートを書いたり、誠実さや思いを込める場合で文字の美しさは大事なところであると考え。各教科書発行者においても、生活や他教科との学習と結びつけた文字文化を学べるような構成になっていると考える。

(委員 A) 各教科書発行者とも、そういったところは含まれているということか。

(調査員代表) それぞれ工夫をしている。

(委員 B) 2者ずつB5判とA4判を採用している。毛筆の学習で教科書の大きさが影響するという調査はあったか。また、国語の発行者と書写の発行者がずれることは調査員の中で話題に上がったか。

(調査員代表) 大きさと見やすさを考えると一長一短がある。国語と書写の発行者の関連について、発行者がずれることによる大きなやりにくさは調査員の中では話題に上がらなかった。

(委員 B) 教科書が大きくなって学習しにくいということはないか。

(調査員代表) 邪魔になることはない。

(委員 C) 小学校との関連で、教科書の中で示すことで期待感を持てるような教科書発行者があるか。

(調査員代表) 小学校の学習の既習事項を踏まえて作られている。どの教科書発行者も漢字等では小学校と中学校のつながりが考えられている。

(議長) 他の質問はないか。

質問がないので、報告については終わりにする。

(議長) 協議に移る。それぞれ意見願う。

(委員 A) 単元の構成が主体的に学習できるようになっているため、第1案は光村図書である。

(委員 B) 第1案は光村図書である。丁寧な手本の提示だけでなく、書写ブックが別冊になっていたり、練習量が確保されていたりする。筆の運び方や力の入れ方などが分かりやすい。書き込みのページ数が多く要所などは繰り返すことで身につくことから、よりよいと考える。手紙、はがきの書き方、入学願書の書き方等、生活に役立つページも多かった。第2案が三省堂である。筆の運び方の解説が分かりやすい。第3案は教育出版である。開いた右側にお手本が書いてある。手紙の書き方、祝儀袋の書き方、メール、原稿用紙の書き方、伝票等幅広く実用的な内容である。

(委員 C) 第1案は教育出版である。書に関する周辺知識が増えるということと小学校での結びつきと生活の様々な場面と結びつけているという点がよかった。第2案は三省堂である。学習の目標や振り返りが分かりやすい。日常生活で書写を活用する場面を取り上げている。第3案が光村図書である。

(委員 D) 第1案は東京書籍である。A B判の広い書面が効果的に使われている。学習の流れの構成が課題解決的で生徒が主体的に見通しを持ちながら学習できる。書写活用ブックが有効である。第2案は光村図書である。主体的な学習ができるよう構成されている。B 4判のお手本が半紙と同じくらいの大きさで見やすい。やや作品数が少ない。第3案は教育出版である。問題解決的な流れになっている。筆脈を意識して書くことが強調されている。数字、矢印、点線で分かりやすく示されており参考にな

る。

(議長) 他の意見はないか。

意見がないので、協議については終わりにする。

③社会 地理的分野

(議長) 地理的分野の調査員代表よろしく願います。

(調査員代表) 報告書に基づいて、社会地理的分野4発行者について報告する。

(議長) 質問はないか。

(委員 A) 4者を比べたとき、デジタル教科書に力を入れていると感じた教科書はあったか。

(調査員代表) どの教科書も2次元コードを活用しており、工夫されている。NHKの映像資料にリンクしていたり、教科書の写真がそのまま大きくなるものもある。特にと言われれば、帝国書院がデジタル化に力を入れていると感じた。

(委員 B) 社会的な見方・考え方を使って、その見方・考え方を高めていくという学習の流れが明確になっている教科書はどれか。

(調査員代表) どの教科書も地理的な見方・考え方を意識しており、本文の中に入れていく教科書もあった。単元を通じて流れがあり学んでいける教科書が多かった。

(委員 C) 社会科内での種目による教科書発行者のずれはどうか。意見を聞きたい。

(調査員代表) 教科内で教科書発行者がばらばらになる経験をしたことがなく、近隣でも聞いたことがない。教科書の中で地・歴・公のつながりを示すページが設定されているが、そこで、ずれが生じる可能性が高い。ただし、授業ができないわけではない。

(委員 D) 北方領土の扱い方で、違和感がある教科書はあったか。

(調査員代表) 領土問題は大きな問題であるが、検定を通過しているので偏った考え方のものはなかった。また、領土問題の扱いはどの教科書も十分な量を確保していた。

(議長) 他の質問はないか。

質問がないので、報告については終わりにする。

(議長) 協議に移る。それぞれ意見願う。

(委員 A) 第1案が東京書籍である。まとめのページが自分の考えを整理しやすくなっている。1時間の流れが構造化されている。領土問題について適切に記載されている。全体的にまとまった内容となっている。第2案は帝国書院である。特徴が分かりやすいように数多くの写真掲載があった。単元の導入が分かりやすい。まとめのページが図を利用した分かりやすい流れになっている。第3案が日本文教出版である。教科書の巻頭でグローバル化を意識した記述がある。学習の進め方については、まずは導入資料で関心と意欲を持たせ学習課題に見通しをもたせている。その後、丁寧な形で本文を進めている。全体的に丁寧な書き方である。「確認」ということで、1時間ごとに学習内容が終結する内容となっている。

(委員 B) 第1案は東京書籍である。ページの見やすさや分量が適切である。単元を貫く課題が設定されている。第2案は教育出版である。1単位時間のまとめがよい。資料や写真が見やすい。内容を多面的に扱っている。第3案は日本文教出版である。地形から見た地域の特徴がよく書かれている。世界と日本の位置から日本のことを述べていて、特徴が丁寧に説明されている。

(委員 C) 種目ごとに選定することを大前提として進めたい。第1案は東京書籍である。

単元を貫く課題や学習課題が設定されている。課題解決的な学習で主体的な学習ができる。図やその他の資料が豊富で分かりやすい。生徒の関心を惹きやすい。地域の内容の学び方が充実している。第2案は教育出版である。単元の導入として活用できる資料を活用し主体的に学習できる。世界と日本の在り方を考えさせている。歴史や公民分野と関連が記載されており、分野を超えて学習できる。第3案は帝国書院である。地理の学習で重要な資料が充実している。地理的な見方や考え方を働かせる内容となっている。

(委員 D) 第1案は東京書籍である。地理的な見方・考え方を働かせる中で言語活動の充実が図られている。地理にアクセスなど発展的な内容がICTを活用しやすい環境を整え、関心を高める工夫がなされている。3分野の関連を明確化し系統的な学習への助けとしている。流れを構造化し単元を貫く学習課題が設定されている。第2案として帝国書院。第3案として教育出版である。

(議長) 他の意見はないか。

意見がないので、協議については終わりにする。

④社会 歴史的分野

(議長) 歴史的分野の調査員代表よろしくお願いします。

(調査員代表) 報告書に基づいて、社会歴史的分野7発行者について報告する。

(議長) 質問はないか。

(委員 A) 二度の大戦の取扱いや表現で発行者の特色が見えやすいと考える。調査員の中でどのようなことが話題に上がったか。

(調査員代表) どの発行者も検定を通過しているので違和感はない。発行者によっては、詳細に記載されているところもあった。例えば、重慶の爆撃や従軍慰安婦問題などである。

(委員 A) 初めて歴史を学ぶ中学生にとっての影響について調査員の中で話題に上がったことがあるか。

(調査員代表) 調査員の中では、特に話題に上がっていない。

(委員 A) 主体的・対話的で深い学びについて調査員の中でどのような話し合いになったか。

(調査員代表) どの教科書も、主体的・対話的で深い学びにつながるような作りとなっている。特徴的な点として、物語にして分かりやすい教科書と事実のみを記載した教科書がありその点では差があった。

(委員 B) どの教科書が適切かという視点で調査員からの意見はあったか。

(調査員代表) 総合的に見ると東京書籍についてバランスが良いという意見があった。帝国書院については、イラストなどを大きく載せており学力差に考慮しているという意見があった。

(委員 C) 埼玉県の人やそれに関する内容を取り扱っている教科書はあったか。

(調査員代表) どの教科書も埼玉県の偉人について触れている。渋沢栄一等である。

(議長) 他の質問はないか。

質問がないので、報告については終わりにする。

(議長) 協議に移る。それぞれ意見願う。

(委員 A) 第1案が東京書籍である。探究課題が設定されていて、歴史を通して何を学ぶのかという見通しが持てる。より深い学びができる構成となっている。第2案が帝国書院である。各ページの右側に時代の記載があり分かりやすい。様々な立場の視点から記載されている。第3案は教育出版である。出来事を中心に記載されているところが分かりやすい。

(委員 B) 第1案は東京書籍である。問題解決的な学習で、主体的、探究的な学習が

できる。学び方を大切にしている。歴史的な見方や考え方を促す活動が豊富である。時代認識を育てる工夫がある。年表等を通して時代認識ができる。第2案が教育出版である。各内容のタイトルが個性的である。ただ冒頭に学習を通して身に付けさせたい見方や考え方を示し過ぎてしまう恐れもある。問題解決的な流れとなっている。第3案は帝国書院である。単元課題が設定できるようになっており単元全体を見通せる。問題解決的な学習が進められる。年表が記載されており、時間認識につながる。

(委員 C) 第1案として東京書籍である。基礎的、基本的な知識を身に付けることができる。歴史的な見方、考え方をより深く学ぶことができる。5つのテーマで現代的な課題に対応しながら学習を進められる。第2案として帝国書院である。第3案として教育出版である。

(委員 D) 第1案は東京書籍である。巻頭に過去の人々の知恵と努力の結晶を知り、人類の未来のために学ぶというコメントがある。第1章から最後の第7章まで、各章のはじめに大きな写真や想像画等を使い、何を学ぶのかが分かりやすい。各単元では、まとまりを重視した紙面構成となっている。構造化された中で課題解決学習ができるように工夫されている。単元末では振り返りができるようになっている。章末のまとめでは、思考ツールを活用して考え方をまとめられるよう工夫されている。「みんなでチャレンジ」では、資料から時代の特色を捉えることで対話的に学習が進められるような工夫がある。各種の補助資料があり、生徒の深い学びができるよう工夫されている。領土問題の背景や経緯、大戦の背景や経緯などが様々な要因から始まっていること、大きな犠牲や代償があったことが記載されている。第2案が教育出版である。導入では、見通しが持てるようになっている。全体的な流れが示され簡潔に学習が進められる工夫がある。教科書の

冒頭で何を学ぶのかが明記されている。章末にはまとめができるようになっている。第3案が帝国書院である。

(議長) 他の意見はないか。

意見がないので、協議については終わりにする。

⑤社会 公民的分野

(議長) 公民的分野の調査員代表よろしく願います。

(調査員代表) 報告書に基づいて、社会公民的分野6 発行者について報告する。

(議長) 質問はないか。

(委員 A) 裁判員裁判について言及している教科書はあったか。

(調査員代表) 裁判が18歳になることについては各教科書意識して作られている。

(委員 A) 拉致問題についてどのような取扱いになっているか。

(調査員代表) 巻頭で横田さんの写真を使っている教科書はあった。

(委員 B) 公民を学ぶ意義が内容としても活動としても意識している教科書はあったか。

(調査員代表) 教科書の中には冒頭に公民を学ぶ意義を強い思いで記載してある教科書もある。しかし生徒はそれを読んで公民を学びたくなるかということ、それは別問題となる。ディベートやロールプレイ等の活動を通して、世の中には様々な意見の対立があって、話し合いの中で折り合いをつけていくことを学んでいく。学ぶ意義が記載されていることだけがいいことではなく、どの発行者も活動が工夫されている。

(委員 B) 調査員の中の意見として授業を展開する際、この教科書は使いやすいという意見はあったか。

(調査員代表) 比較的ということではあるが、一連の流れを意識して、生徒を惹きつけて、生徒に活動させて、という視点で東京書籍が多かった。帝国書院については、

導入のイラストが生徒にとって分かりやすい。導入でもまとめでも同じイラストを使うという点では工夫されている。日本文教出版については、子供の視点で書かれているという意見があった。

(議長) 他の質問はないか。

質問がないので、報告については終わりにする。

(議長) 協議に移る。それぞれ意見願う。

(委員 A) 第1案が東京書籍である。課題解決学習に主体的に取り組める。公民としての資質・能力の育成が図られる。地理的分野・歴史的分野・公民的分野と流れが一貫している。第2案は帝国書院である。学習の前に章全体を見通せる。章や単元の課題を解決しやすい。振り返りで思考力・判断力・表現力の育成が図れる。資料が分かりやすい。第3案は教育出版である。多面的に学習を進めることができる。

(委員 B) 第1案は東京書籍である。探究課題、まとめの活動を配置し、思考ツールを使った学習内容の整理、解決により何を学んだのかが分かるように工夫されている。現代社会の見方・考え方を小集団による協働活動を使って養っている。第2案は帝国書院である。資料活用問いが適宜設定されている。効果的に技能の向上が図れる。第3案として教育出版である。現代や過去の歴史的事象について、資料を活用しながら多面的、多角的に考察できるようになっている。

(委員 C) 第1案は東京書籍である。問題解決型の学習が可能である。学習課題が明記されていて生徒が見通しをもって学習できる。まとめのページに思考ツールが紹介されていて考えを整理できる。対話的な学習を進められるような工夫がある。第2案は帝国書院である。冒頭に両開きで社会の縮図があり、その

単元で学ぶ概要が示されている。まとめが工夫されている。グループ学習で様々な議論ができる工夫がある。よりよい社会を形成するための現代の課題が紹介されている。第3案は教育出版である。

(委員 D) 第1案は東京書籍である。教科書の内容を契機として実際の行動に移せる構成となっている。内容が具体的で分かりやすい。第2案は教育出版である。学習のまとめとステップテストが便利である。全体的に網羅されていて法令等も掲載されている。第3案は帝国書院である。章の振り返りが工夫されている。具体例が示され親しみやすい。

(議長) 他の意見はないか。

意見がないので、協議については終わりにする。

⑥社会 地図

(議長) 地図の調査員代表よろしく願います。

(調査員代表) 報告書に基づいて、地図2発行者について報告する。

(議長) 質問はないか。

(委員 A) 教科書の大きさについて指導に影響するか。

(調査員代表) 小さくて軽い方が良いが、大きければ見やすいというメリットもある。

(議長) 他の質問はないか。

質問がないので、報告については終わりにする。

(議長) 協議に移る。それぞれ意見願う。

(委員 A) 第1案が帝国書院である。地域の特色が考察しやすいようになっている。自然、産業、生活、文化の視点で構成されており、広い視野から世界と日本の地域的な特徴を考察させ理解させるような内容となっている。他分野にも活

用できるように工夫されている。第2案は東京書籍である。

(委員 B) 第1案は帝国書院である。南半球で日本と同じ緯度の国はどこかという視点が入っている。A4判でサイズアップされており見やすくなっている。QRコードが多く掲載されており、資料を活用しやすい。地図と防災の関係も記載されており中学生のうちから意識することが必要であると考え。情報量は多いが見やすく整理されている。第2案は東京書籍である。情報量は豊富だが、AB判で見やすさを比較すると劣る。

(委員 C) 第1案は帝国書院である。立体地図が見やすく、親しみが持てる。それぞれの地域の特色が示されている。第2案は東京書籍である。

(委員 D) 第1案は帝国書院である。種類の異なる地図が掲載されており、世界の諸地域や日本の諸地域の学習で課題にあった資料を選択し課題解決学習を主体的に進めることができる。A4判の良さを発揮し、資料を効果的に入れ、見やすくなっている。色合い等が見やすい。第2案は東京書籍である。種類の異なる地図で多面的に諸地域を学習できる。

(議長) 他の意見はないか。

意見がないので、協議については終わりにする。

(議長) ここで、公開についても終了とさせていただきます。

傍聴人の皆様には、ご退席をお願いします。

選定の後、再度入室をお願いします。

協議終了、傍聴人退席

(3) 選定

(議長) それでは、選定を行う。事務局より説明をお願いします。

(事務局) 規約に基づいて種目ごとの選定方法を説明。

(議長) まず国語について選定を行う。協議の際、各市町、光村図書選出の記録がある。

採択案として選定させていただく。

(委員) 異議なし。

(議長) 続いて、書写について選定を行う。各市町、光村図書選出の記録がある。

採択案として選定させていただく。

(委員) 異議なし。

(議長) 続いて、社会地理的分野について選定を行う。各市町、東京書籍選出の記録がある。

採択案として選定させていただく。

(委員) 異議なし。

(議長) 続いて、社会歴史的分野について選定を行う。各市町、東京書籍選出の記録がある。

採択案として選定させていただく。

(委員) 異議なし。

(議長) 続いて、社会公民的分野について選定を行う。各市町、東京書籍選出の記録がある。

採択案として選定させていただく。

(委員) 異議なし。

(議長) 続いて、地図について、選定を行う。各市町、帝国書院選出の記録がある。

採択案として選定させていただく。

(委員) 異議なし。

(議長) それでは、確認をする。

国語、光村図書。書写、光村図書。社会地理的分野、東京書籍。

社会歴史的分野、東京書籍。社会公民的分野、東京書籍。

地図、帝国書院である。

この後、採択案の確認として伝える。

以上で選定を終了する。

~~~~~ 暫時休憩 ~~~~~

(議長) それでは、傍聴人の入室をお願いします。

傍聴人再入場

(議長) それでは、再開する。

採択用教科用図書の採択案の確認をする。

選定の結果、国語は光村図書を第七採択地区中学校用教科用図書採択案としてよいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 国語は光村図書を選定する。

(議長) 書写については、光村図書を採択案としてよいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 書写は光村図書を選定する。

(議長) 社会地理的分野については、東京書籍を採択案としてよいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 社会地理的分野は東京書籍を選定する。

(議長) 社会歴史的分野については、東京書籍を採択案としてよいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 社会歴史的分野は東京書籍を選定する。

(議長) 社会公民的分野については、東京書籍を採択案としてよいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 社会公民的分野は東京書籍を選定する。

(議長) 地図については、帝国書院を採択案としてよいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 地図は帝国書院を選定する。

(議長) 以上をもって、午前の部を終わる。事務局より連絡をお願いする。

(事務局) 午後の日程の説明。

(議長) 以上をもって午前の予定を終了する。

~~~~~昼食休憩~~~~~

(2) 調査員による調査研究結果の報告・協議

(議長) 午後の部を開始する。

⑦数学

(議長) 数学の調査員代表よろしく願います。

(調査員代表) 報告書に基づいて、数学7発行者について報告する。

(議長) 質問はないか。

(委員 A) 数学のよさや数学的な処理の美しさ、数学を学ぶ価値を学習者である生徒が感じ取ってもらえる教科書はあったか。

(調査員代表) 数学が苦手な生徒にとっては、数学を学ぶ価値を感じにくい場合もある。日常場面を課題として活用したり、将来どのように役に立つかという視点を取り入れたりすることが大切だという意見もあった。日常場面の活用に力を入れていると感じた教科書は東京書籍、教育出版、日本文教出版である。東京書籍は章のはじめの導入で、日常場面がふんだんに盛り込まれている。主体的な活動が引き出せる内容となっていた。教育出版については各章の最初にその内容に関わる日常の題材を基にスムーズに学習に取り組めるように工夫されている。日本文教出版は、日常の問題を数学化することで生徒の興味関心を持たせる内容となっており数学の学習の必要性を促すことができると考える。将来役に立つというキャリア教育の視点では、大日本図書と教育出版が挙げられる。大日本図書については、進路キャリアの視点が充実しており、数学が社会でどのように役立ち、必要とされているか生徒が実感できる内容になっている。教育出版については、日常の問題や職業との関わりなどが充実しており、数学が活用されていること、数学を活用していくことが意識されている。

(委員 B) デジタル教科書を意識したつくりになっている教科書はあったか。

(調査員代表) これからの時代はICTの活用が重要であり、生徒にとっては直感的に理解をしたり論理的に理解をしたりして理解を深めていく活動が必要であるという話が調査員会で出た。QRコードが示されている教科書があった。特に

際立ったところとして、啓林館、学校図書、数研出版が挙げられる。啓林館についてはQRコードが随所に印刷され、ICTの連携が意識されている。学校図書についてもQRコードを掲載し、直接コンテンツにつながるように工夫されている。数研出版もQRコードを活用して動画などが見られるようになっている。QRコードだけでは深まりはないものの、導入や振り返りで活用できると考える。

(議長) 他の質問はないか。

質問がないので、報告については終わりにする。

(議長) 協議に移る。それぞれ意見願う。

(委員 A) 第1案が東京書籍である。小中の接続の観点がよい。深い学びや活用の問題で新学指導要領の求める力の育成に対する取組ができています。内容に無駄がなく、構造的に整理されている。既習事項の取り扱いについて分かっていないと取り組みづらいますが、小学校の振り返りがある。QRコードは解答だけでなく、図形の展開や移動などが動画で入っている。全国学力・学習状況調査の中で特に活用の部分についての記載が多い。第2案が啓林館である。演習できる問題が多く、巻末ページが充実している。既習事項の振り返りがちりばめられており、理解しやすい。第3案が日本文教出版である。

(委員 B) 第1案は東京書籍である。例題が分かりやすい。数学の得意不得意に関わらず取り組みやすい。巻末資料が充実している。第2案は学校図書である。問題数が充実している。深めよう、考えようというコラムが活用できる。第3案は教育出版である。

(委員 C) 第1案は教育出版である。章の始まりに学習内容に関連した作業をするこ

とによって興味関心を喚起できる。巻頭に数学的な考え方がまとめられており、いつでも振り返って実践できる。第2案は東京書籍である。問題解決の過程が明確で身近な生活の事象から学習に入っている点が良い。各種の導入課題では、創作的な活動から本文の主題へ繋がり、数学的活動の有用性が実感できるように示されている。つまずきやすい生徒への配慮が見られる。第3案は学校図書である。日常生活と数学を関連付け主体的に学習に取り組むことができる。

(委員 D) 第1案が東京書籍である。数学の問題解決の過程を示し、生徒が主体的に取り組めるようになっている。数学の問題発見、解決の過程にそって問題のページや質問を吟味し、生徒が見方・考え方を働かせた数学的活動に取り組めるようになっている。例マークをつけた個所では、図形を量的に観察するなど学習内容の理解を助けるデジタルコンテンツが豊富にある。知識技能を身に付ける工夫がある。第2案は学校図書である。第3案は啓林館である。

(議長) 他の意見はないか。

意見がないので、協議については終わりにする。

⑧理科

(議長) 理科の調査員代表よろしくお願ひする。

(調査員代表) 報告書に基づいて、理科5発行者について報告する。

(議長) 質問はないか。

(委員 A) 理科の活動を保障しつつ、理科の見方・考え方を育てながらバランスよく安全性に配慮し工夫している教科書はあるか。

(調査員代表) 理科の見方・考え方や実験方法を詳しく説明しているのは学校図書であると

考える。実験は4ページにわたり考察まで丁寧な説明となっている。啓林館は探究のやり方を説明しながらワークシートを作って丁寧に学習を進められるよう工夫されている。

(委員 A) そのようなことを通して、理科としての見方や考え方に繋がっているということか。

(調査員代表) 学校図書の場合は、毎時間見方や考え方が明示されている。毎時間確認できる。

(委員 B) その中でも、実験や観察で分かりやすい教科書はあったか。

(調査員代表) やらなければいけない実験や観察はどの教科書も探究の流れに沿って掲載されている。実験結果の取り扱いについては、細かく載せている教科書と載せないで考えさせる教科書があり、その点については違いがある。使いやすさは教員による。

(委員 C) 結果が掲載されている教科書はどれか。

(調査員代表) 学校図書である。教育出版は結論が明示されている。掲載されていないのは東京書籍である。

(委員 D) デジタル教科書を使うことについて、工夫されていると考える教科書はどれか。

(調査員代表) QRコードの数で言うと、啓林館が圧倒的に多い。随所にQRコードがあって端末をかざすと実験方法や基本操作の説明等映像が流れるようになっている。他の教科書であってもページのはじめなど、ところどころにQRコードがついている。

(委員 D) 啓林館は多く、その他は同じくらいと考えてよいか。

(調査員代表) その通りである。

(委員 E) 理科の教科書の表紙は、「理科」「科学」「サイエンス」と様々である。そ

のことについて、調査員会で話題に上がったか。

(調査員代表) 調査員会議の中ではあがっていない。

(委員 B) 教科書の軽量化について、東京書籍で15%減、学校図書は20%減というのは、前回の教科書に比べて軽くなったということか。

(調査員代表) その通りである。

(委員 B) 軽くなっても内容は充実しているのかどうか、調査員の意見を聞きたい。

(調査員代表) 内容が削減されている印象はない。ただし、サイズについては東京書籍は縦に長いため、使いやすさについては明言できない。

(議長) 他の質問はないか。

質問がないので、報告については終わりにする。

(議長) 協議に移る。それぞれ意見願う。

(委員 A) 第1案が教育出版である。実験観察の写真が見やすい。生物カードやハローサイエンスについて活用できる。用語が整理されている。第2案は啓林館である。写真が充実していてきれいである。シンプルなイラストは見やすく理解を助ける。身近な事象から探究心をくすぐる構成となっている。第3案は学校図書である。理科と職業との関連が示されている。

(委員 B) 第1案が教育出版である。課題が明確で問題解決的な学習になっている。つまづきを補い、丁寧な学習ができる。探究活動的な流れ、見やすさ、安全への配慮がある。各単元の構成が自然や生活の中から問題に気付かせ、仮説・計画を立て、観察や実験で確かめ、科学的に考察させる手順が踏まれ探究的な学習が進められるよう工夫されている。第2案は東京書籍である。各学習が提示された疑問に対して仮説を立て、検証方法の構想を練り、観察実験で確かめ、結果の整理と考察を進めることができるようになっている。各単元

のはじめに問題を見出すためのレッツスタートが用意され問題解決的な学習が進められるようになっている。B 5判縦長の紙面をうまく活用している。第3案が大日本図書である。各学習で提示された疑問に対して予想や計画などの活動を行い、観察実験で確かめ、結果の整理と考察を進める構成となっている。

(委員 C) 第1案が東京書籍である。探究の過程に沿った学習活動となっている。学習内容と職業を結び付けている。第2案が教育出版である。探究の過程がマークで示され見通しをもって学習できるようになっている。第3案は啓林館である。

(委員 D) 第1案は教育出版である。何を学ぶかが明確である。重要語句に色がついていて分かりやすい。文字の大きさ等も分かりやすい。生活との関連も強調されている。第2案は啓林館である。QRコードがあり重要語句が確認でき、動画や資料を活用できる。生活や他の教科との関連が図られている。レポートの作成方法が図られている。第3案は東京書籍である。問題練習が充実している。A 4判サイズがよい。思考力を養うには良い作りとなっている。

(議長) 他の意見はないか。

意見がないので、協議については終わりにする。

⑨音楽 一般

(議長) 音楽の調査員代表よろしくをお願いします。

(調査員代表) 報告書に基づいて、音楽一般2発行者について報告する。

(議長) 質問はないか。

(委員 A) 自国の音楽についての取扱いはどのようになっているか。

(調査員代表) どちらの教科書にも様々な国の音楽が写真等も含め学べるようになっている。

(委員 A) 日本の音楽についての取扱いはどのようになっているか。

(調査員代表) 日本の音楽についても、和楽器や歌舞伎等掘り下げて学べるようになっている。

(委員 B) 例示している鑑賞教材について違いはどうか。

(調査員代表) 数は、どちらも各学年6から10の取扱いがある。大きな違いはない。

(委員 C) 生涯にわたって音楽を楽しむ工夫がされている教科書はどちらか。

(調査員代表) それぞれに良さがあるが、教育出版の方が新曲を多く扱っている。新しい曲の方が若い世代に好まれるだろう。

(議長) 他の質問はないか。

質問がないので、報告については終わりにする。

(議長) 協議に移る。それぞれ意見願う。

(委員 A) 第1案が教育芸術社である。変声期を迎えた中学生にとって説明が分かりやすい。教科書全般にわたって色彩が豊かであり、音楽の楽しさが味わえるような配慮がある。課題の提示により主体的に学べるようになっている。第2案は教育出版である。音楽の学習活動を大切にしている。

(委員 B) 第1案は教育芸術社である。主体的・対話的で深い学びを実現する構成となっている。学びの手順や工夫が具体的に示されている。第2案が教育出版である。言語活動を充実させながら音楽の価値に迫っている。

(委員 C) 第1案は教育芸術社である。3色で示されていて見やすい。楽曲分析の視点が示されている。何を課題として学んでいるのか見やすい。第2案は教育出版である。資料が大きく示され、曲をイメージしやすい。QRコードがあり携帯端末でも音楽を楽しめる。

(委員 D) 第1案が教育芸術社である。親しみやすい曲が多い。音楽に関する歴史を扱

っており、楽しみながら学ぶことができる。第2案が教育出版である。全体的に知識の量が多い

(議長) 他の意見はないか。

意見がないので、協議については終わりにする。

⑩音楽 器楽・合奏

(議長) 音楽の調査員代表よろしく願います。

(調査員代表) 報告書に基づいて、音楽器楽・合奏2発行者について報告する。

(議長) 質問はないか。

(委員 A) 種目による発行者の違いは指導に影響するか。

(調査員代表) 音楽については、同じ発行者の方が使いやすさがあると思われる。

(委員 B) 発行者による展開の仕方は大きく違うと考える。授業を進める上で使いやすさはどうか。

(調査員代表) 教科書全体の流れは違うが、段階を追って進めている点は同じである。教育出版は、はじめの曲があり、最後にまとめとなる曲がある。流れがある。

(委員 B) 曲を聴いて楽器の演奏がしたくなるのか、それとも楽器の練習をしていたらある曲が演奏できるようになったとするのか、中学生はどちらの方が興味を示すか。

(調査員代表) 学校では、先に楽器を練習してから演奏できる曲を増やしていき活動を広げていくようにしている。

(委員 C) 日本の楽器を学んだら実際に教科書の中で教えられるものなのか。

(調査員代表) 基本的な奏法についてはどちらの教科書にも記載がある。実際に箏の演奏で使っている。

(議長) 他の質問はないか。

質問がないので、報告については終わりにする。

(議長) 協議に移る。それぞれ意見願う。

(委員 A) 第1案が教育芸術社である。楽曲が生徒の心情に合った形で編曲されている。学習のねらいが生徒に分かりやすく示されている。音楽と豊かに関わりながら学校の学びに繋げている。第2案は教育出版である。

(委員 B) 第1案は教育芸術社である。説明が分かりやすい。楽器の手入れの方法も示されている。第2案が教育出版である。楽器同士を比べながら学べるようになっている。

(委員 C) 第1案は教育芸術社である。楽器の使い方が詳しく書かれている。馴染みのある曲が多い。メロディーのページは特に生徒の馴染みのある曲が多い。第2案は教育出版である。

(委員 D) 第1案が教育芸術社である。色彩が美しい。図が分かりやすい。音楽の楽しさや喜びを味わうことが焦点化されている。第2案が教育出版である。学習のねらいからまとめまで段階的なつくりとなっている。

(議長) 他の意見はないか。

意見がないので、協議については終わりにする。

⑪美術

(議長) 美術の調査員代表よろしく願います。

(調査員代表) 報告書に基づいて、美術3発行者について報告する。

(議長) 質問はないか。

(委員 A) 生徒の意欲を高めるような工夫はあったか。どのような特色があるか。

(調査員代表) 開隆堂は紙面がワクワクするような作品の面白さがある。巻末に技法の紹介があり、生徒の制作意欲が掻き立てられる内容となっている。

(委員 A) 先生が使うとしたらどの教科書か。

(調査員代表) 優劣はつけられないが、現在、開隆堂の教科書を使っていることから使い慣れているという側面は考えられる。他の教科との関連で考えれば光村図書の教科書も学びを深められると考えられる。日本文教の教科書は、3冊で構成され、学年の目標を定めて取り組める良さがあると考えられる。

(委員 B) 日本文教だけが3冊構成、他の2者は2冊で構成されている。違いについて調査員会議で話題に上がったことはあるか。

(調査員代表) 3冊だと、生徒は学年で1冊ととらえることが考えられる。生徒は、学年での目標を設定しやすくなる。2冊構成だと、教科書が厚くなる分資料が豊富になる。それぞれの利点がある。

(委員 C) 小学校の図画工作から中学校では美術になる。その意味合いについての取扱いはどうか。

(調査員代表) どの教科書も1年生の教科書の巻頭に美術の説明がある。

(委員 C) 苦手意識のある生徒への配慮はあるか。

(調査員代表) 教師の授業の展開にもよるが、様々な表現方法があるため、自分にあった表現方法を選ばせるということもできる。日本文教では、描き方のヒント示しているページもある。それぞれに工夫がある。

(議長) 他の質問はないか。

質問がないので、報告については終わりにする。

(議長) 協議に移る。それぞれ意見願う。

(委員 A) 第1案は開隆堂である。学習のポイントが明確になっている。安全に関する

注意点が示されている。第2案が光村図書である。写真で順序立てて解説している。第3案が日本文教出版である。技法の説明が丁寧である。

(委員 B) 第1案は開隆堂である。美術を通して社会との関連が見えてくるという感じがした。全体的にデザインが先進的である。第2案は光村図書である。表紙が美しく興味がわきやすい。トレーシングペーパーを使うなど工夫がある。他教科との関連が示されている。第3案が日本文教出版である。

(委員 C) 第1案が日本文教出版である。造形的な視点コーナーで自ら発想や構想が生かせるような視点を投げかけている。目標が3観点揃っている。生徒の活動の様子が分かりやすい。大きな作品や迫力のある作品が多い。色彩が美しい。第2案が開隆堂である。輝きを感じる内容である。学び方が分かりやすい。目標や学習のポイントが示されている。第3案が光村図書である。豊かな感性を養うようにしている。大きな作品もあるがやや少ない。

(委員 D) 第1案が開隆堂である。造形的な視点が理解できるように工夫されている。用語解説を別枠に記載するなどの工夫がみられる。生徒の育成したい資質や能力を3つの目標として明示している。学ぶ内容や学習の魅力について解説がある。第2案については日本文教出版である。第3案として光村図書である。

(議長) 他の意見はないか。

意見がないので、協議については終わりにする。

(議長) ここで、公開についても終了とさせていただきます。

傍聴人の皆様には、ご退席をお願いします。

選定の後、再度入室をお願いします。

協議終了、傍聴人退席

(3) 選定

(議長) それでは、選定を行う。

まず数学について選定を行う。協議の際、各市町、東京書籍選出の記録がある。

採択案として選定させていただく。

(委員) 異議なし。

(議長) 続いて、理科について選定を行う。協議の際、各市町、教育出版選出の記録がある。採択案として選定させていただく。

(委員) 異議なし。

(議長) 続いて、音楽一般について選定を行う。各市町、教育芸術社選出の記録がある。採択案として選定させていただく。

(委員) 異議なし。

(議長) 続いて、音楽器楽・合奏について選定を行う。各市町、教育芸術社選出の記録がある。採択案として選定させていただく。

(委員) 異議なし。

(議長) 最後、美術について選定を行う。各市町、開隆堂選出の記録がある。採択案として選定させていただく。

(委員) 異議なし。

(議長) 以上で選定を終了する。

~~~~~ 暫時休憩 ~~~~~

(議長) それでは、傍聴人の入室をお願いします。

傍聴人再入場

(議長) それでは、再開する。

採択用教科用図書の採択案の確認をする。

選定の結果、第七採択地区中学校用教科用図書、数学は東京書籍を採択案としてよいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 数学は東京書籍を選定する。

(議長) 理科については、教育出版を採択案としてよいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 理科は教育出版を選定する。

(議長) 音楽一般については、教育芸術社を採択案としてよいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 音楽一般は教育芸術社を選定する。

(議長) 音楽器楽・合奏については、教育芸術社を採択案としてよいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 音楽器楽・合奏については教育芸術社を選定する。

(議長) 美術については、開隆堂出版を採択案としてよいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 美術は開隆堂出版を選定する。

(議長)以上をもって、議長の任を解かせていただく。事務局より連絡をお願いする。

(事務局) 22日の日程の連絡、内容の確認。

5 あいさつ 第七採択地区教科用図書採択協議会会長（北本市教育委員会教育長）

以上をもって本日の予定を終了する。

6 閉 会

(事務局) 委員の資料は、回収させていただくので机の上に置いて退室願う。

令和 年 月 日

署名

印

署名

印